

本年度の 重点目標	『すべての教育活動をビジネスの視点で！』『感動溢れる学校づくり！』『授業のアップデート』 ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・キャリア教育の一層の充実 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項 (達成基準を含む)
PTA活動 (総務部)	生徒の業務・運営における連携体制の構築	式典の準備や進行の補助などの役割を与える。またPTAや地域との連携を図る機会を設ける。	生徒は与えられた役割を全うすることができる。 A：役割を全うできた生徒が100% B：役割を全うできた生徒が75%以上 C：役割を全うできた生徒が50%以上 D：役割を全うできた生徒が50%未満
学習指導 (教務部)	授業のアップデート促進	授業参観週間等を利用し、相互の授業見学を促進する。また、外部研修を利用し他校の先生の授業を参観する。	授業見学、外部研修を受講しアップデートする。 A：全教員が授業のアップデートができた B：70%の教員が授業のアップデートができた C：50%の教員が授業のアップデートができた D：50%以上の教員が授業のアップデートできなかった
生徒指導 (生徒サポート部)	交通事故の防止と交通マナーの向上	立哨指導や交通マナーに関する情報提供などを適宜行い、通学マナー全般における意識向上と注意喚起に努める。	通学マナーを守らせる。 A：適切に利用できた生徒が80%以上 B：適切に利用できた生徒が65%以上 C：適切に利用できた生徒が50%以上 D：適切に利用できた生徒が50%未満
生徒会活動 (生徒サポート部)	生徒主体の生徒会活動の構築	生徒会執行部を中心として生徒の意見を生かしながら、各種行事の企画・改善を図る。	アンケート等を活用し、生徒の意見を集約する。 A：80%の行事が生徒主体で企画・改善できた B：65%の行事が生徒主体で企画・改善できた C：50%の行事が生徒主体で企画・改善できた D：35%の行事が生徒主体で企画・改善できた
教育相談 (教育相談部)	問題を抱える生徒の早期発見と個々の生徒への適切なサポートの実施	教職員の連携と協体制度を構築する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用と外部機関等との連携を強化する。	教育相談に関する様々な情報を発信し、正確な状況把握と分析に努める。 A：生徒自らが教員へ相談し、適切な対応ができた B：正確な生徒情報を把握し、サポートできた C：生徒情報のある程度把握し、傾聴できた D：上記A～Cが実践できなかった
保健・清掃指導 (保健厚生部)	健康的な生徒の育成と快適な環境づくり	関係する教員と情報共有を図り、保健室を利用する生徒へ適切な対応をする。	他分掌、他職員、SC、SSWと協力して対応する。 A：関係職員と常に情報共有した B：関係職員とほぼ情報共有した C：関係職員との情報共有が遅れることがあった D：関係職員との情報共有が不十分なことがあった
進路指導 (キャリアサポート部)	キャリア教育のさらなる充実と主体的な進路実現に取り組むことができる環境づくり	外部講師を積極的に活用し、職員もキャリア教育のさらなる研鑽をする。外部機関とも連携、協力し、適切な進路情報を収集する。進路情報を積極的に提供し、適切に発信する。	各学年と連携し、外部講師の積極的な活用を図る。 A：外部講師、外部機関の活用が100% B：外部講師、外部機関の活用が75%以上 C：外部講師、外部機関の活用が50%以上 D：外部講師、外部機関の活用が50%未満
図書館活動 (図書館部)	情報発信と地域連携事業の実施	図書館だよりや新刊案内等の情報発信をTeamsを通して行う。大学や公共図書館等と連携し、情報発信を積極的に実施する。	公共図書館や大学等と連携し、情報発信を積極的に行う。 A：図書館活動の情報発信が100% B：図書館活動の情報発信が70%以上 C：図書館活動の情報発信が50%以上 D：図書館活動の情報発信が50%未満
情報管理・情報発信 (教育情報部)	県配備パソコン更新時の迅速な対応と適切な運用	県配備のパソコンに関するマニュアルを作成し、各教員で管理運用できるようにサポートする。	県配備パソコンのマニュアルを作成し、活用の促進を図る。 A：全教員の更新に問題がなかった B：75%以上の教員の更新に問題がなかった C：50%以上の教員の更新に問題がなかった D：更新に問題のない教員が50%未満

商業教育 (商業科)	新しい学習評価に対応できる評価方法の実践	新学習指導要領に基づき3年次科目の評価規準を試行・検討する。	評価規準を試行・検討する。 A：評価規準を試行・検討し、改善することができた B：評価規準を試行・検討することができた C：評価規準の試行に留まった D：評価規準の試行ができなかった
総合ビジネス科 グローバルビジネス科 グローバルコース	教科商業の学びを生徒が地域社会に生かすことができる取組の推進	授業にて地域社会との協働事業を設定できるように学科主任と授業担当者が連携する。	地域社会との連携授業を企画創造する。 A：連携授業に参加した生徒が100% B：連携授業に参加した生徒が75%以上 C：連携授業に参加した生徒が50%以上 D：連携授業に参加した生徒が50%未満
情報処理科 ITビジネス科	情報活用能力を備えビジネスで活用できる人材の育成	ICT環境・高性能PCルームの長所を生かした実践的な授業に取り組む。	実践的な授業を行う。 A：90%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ B：70%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ C：50%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ D：実施できなかった
国際ビジネス科 グローバルビジネス科 グローバルコース	ビジネスのグローバル化で必要とされる外国語及び経済の学力の定着	キャリアを意識し自信をもたせるための高度な資格取得の挑戦をさせる。	高度な資格取得に積極的に取り組む。 A：取り組んだ生徒が70%以上 B：取り組んだ生徒が50%以上 C：取り組んだ生徒が30%以上 D：取り組んだ生徒が30%未満
経理科 会計ビジネス科	簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材を育成する授業の実践	授業改善の実施を促進するために学科主任と科目担当者が連携する。	授業改善に取り組む。 A：取り組んだ教員が80%以上 B：取り組んだ教員が50%以上 C：取り組んだ教員が30%以上 D：取り組んだ教員が30%未満
第1学年 (1年学年会)	周囲への貢献意欲や感謝する心の育成	学校の諸活動を通して、クラスの仲間と協力して積極的に行事に取り組めるよう働きかけを行う。	目標設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満
第2学年 (2年学年会)	協調性や主体性を備えた生徒の育成	修学旅行や学校行事を通して「チーム力」や「主体性」を身に付ける機会を与え自主的に考えさせる。	自ら課題を設定して主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満
第3学年 (3年学年会)	進路実現に向けて挑戦する生徒の育成	キャリアサポート部と連携をとり、担任面談等を活用して進路実現へのサポートをする。	進路実現に向けて主体的に進路先を調べる。 A：希望の進路を実現させた生徒が100% B：希望の進路を実現させた生徒が90%以上 C：希望の進路を実現させた生徒が80%以上 D：希望の進路を実現させた生徒が80%未満
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組む。 A：いじめの重大事態が0件 B：いじめの重大事態が1件以内 C：いじめの重大事態が2件以内 D：いじめの重大事態が3件以上
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	公務等を削減して時間外労働時間を減らす。 A：時間外労働80時間以上が0名 B：時間外労働80時間以上が3名以内 C：時間外労働80時間以上が5名以内 D：時間外労働80時間以上が6名以上